# 一般社団法人日本ソフトウェア科学会 2021 年度定時社員総会

1. 日　　時　　2021 年 6 月 23 日（水）18：00～19:00

2. 場　　所　　オンライン開催

3. 議　　案

第 1 号議案　　2020 年度事業報告の承認の件
第 2 号議案　　2020 年度決算の承認の件
第 3 号議案　　2021～2022 年度役員の選任の件

4. 報告事項

1. 2021 年度事業計画の件
2. 2021 年度予算の件

以上

Japanese Society for Software Science and Technology

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
一般社団法人学会支援機構内
jssst@asas-mail.jp | P 03-5981-6011 | F 03-5981-6012
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13

# 2020 年度事業報告

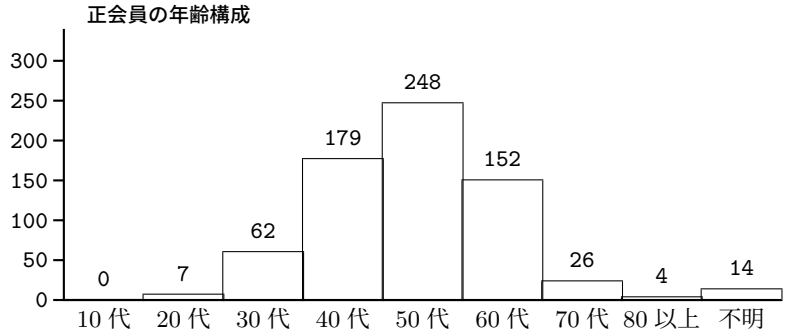
1. 会員

2021 年 3 月 31 日現在の会員状況は次の通りである．

| | | | |
|---|---|---|---|
| 正会員 | 692名 | 準会員 | 15名 |
| 名誉会員 | 16名 | 団体会員 | 5団体 |
| 学生会員 | 28名 | 賛助会員 | 3社 |

2020 年 3 月 31 日時点での正会員数は 721 名であり，そこから 29 名減少したことになる．

正会員の年齢構成を次のグラフに示す．50 才以上の正会員が 62%程度，40-49 才の正会員が 26%程度，30-39 才の正会員は 9%程度である．なお，20 代の正会員が少ないが，20 代の会員の多くは学生会員であると想定される．




2. 会議の開催

2.1 総会（2020 年度）

日　時：　2020 年 6 月 15 日（月）18:00〜19:00
場　所：　オンライン
出席者：　代表会員 29 名（委任状を含む）（代表会員総数 42 名）
議　案：　第 1 号議案　2019 年度事業報告の承認の件
　　第 2 号議案　2019 年度決算の承認の件
　　第 3 号議案　2020–2021 年度役員選任の件

議決の定数を超える 29 名（委任状を含む）の出席があり，増原英彦理事長を議長に，第 1 号議案，第 2 号議案を審議し，決算が適正であるとの 2019 年度監事の報告を受けて，満場一致でこれらを承認した．続いて第 3 号議案について審議し，役員候補者選挙で選出された役員候補者を役員として選任することも満場一致で議決した．

なお，通常行われる総会終了後の名誉会員記の授与式は，大会にて行われることとなった．

2.2 理事会・役員会

理事会は，第 47 回（2020–05–18）から第 51 回（2021–03–17）まで 5 回開催した．役員会は，第 63 回（2020–05–18）から第 69 回（2021–03–17）まで 7 回開催した．2020 年度の理事及び監事は次の通りである．

理事長　増原英彦
副理事長　風間一洋
理　事　綾塚祐二　五十嵐淳　石橋圭介　井上拓　岩崎英哉

鵜林尚靖　馬谷誠二　大囿忠親　沢田篤史　野田夏子
前田俊行

監　事　大場みち子　吉岡信和

2.3 評議員会

令和元年度評議員会をオンラインにて開催し（2020–09–15），学会運営について討議した．評議員会開催時における評議員は次の通りである（会員番号順）．

井上克郎　筧捷彦　高橋和子　佐藤周行　中島震
上田和紀　丸山宏　中島秀之　大堀淳　二木厚吉
中田育男　大須賀昭彦　加藤和彦　玉井哲雄　田中二郎
本位田真一　佐々政孝　柴山悦哉　米崎直樹　大沢英一
深澤良彰　中島秀之　中田育男　橋田浩一　平田圭二
亀山幸義　中谷多哉子

3.　事業

3.1 機関誌編集

第 357 回（2020–04–16），第 358 回（2020–05–25），第 359 回（2020–08–06），第 360 回（2020–11–06），第 361 回（2021–02–05）の 5 回の編集委員会を開催し，学会誌「コンピュータソフトウェア」第 37 巻第 2〜4 号および第 38 巻第 1 号を発行した．うち，第 37 巻第 2 号および第 38 巻第 1 号はサイバー増大号であり，冊子体とサイバーページ（電子出版）から構成した．また，「ソフトウェア工学の基礎」（第 37 巻第 4 号），「実践的 IT 教育」（第 38 巻第 1 号）の特集を組んだ．

解説論文の執筆者を若い層にも広げることを目指し，博士論文を執筆したばかりの研究者が自身の研究領域についてサーベイする解説論文特集を企画した．

第 25 回研究論文賞として，以下の 2 件を選定した．

・池松 香，福本 雅朗，椎尾 一郎: 「Ohmic-Sticker: 静電容量方式タッチサーフェスを拡張する Force-to-Motion 方式入力機器」Vol. 36 No. 3 (2019)
・片山 卓也: 「国民年金法の述語論理による記述と検証 SMT ソルバー Z3Py を用いたケーススタディ」Vol. 36 No. 3 (2019)

また，第 8 回解説論文賞は該当論文なしであった．

2020 年度の編集委員会の構成は次の通りである．

編集委員長　河野健二
編集副委員長　河内谷清久仁　横山大作
編集担当理事　岩崎英哉　馬谷誠二
編集委員　青木利晃　阿萬裕久　綾塚祐二　五十嵐悠紀　石井大輔
伊藤恵　鵜川始陽　河合栄治　川端英之　粂野文洋
小宮常康　沢田篤史　島慶一　杉浦裕太　住井英二郎
宋剛秀　高田眞吾　千葉滋　中澤仁　中野圭介
花川典子　林晋平　松田一孝　松野裕　門田暁人
山田浩史　吉田則裕

### 3.2 企画委員会

2021 年 3 月 15 日にオンラインで企画委員会を開催した。

2020 年度の企画委員は次の通りである。

企画委員長　綾塚祐二

企画担当理事　綾塚祐二　五十嵐淳 (6 月より)

企画委員　綾塚祐二　五十嵐淳　大越匡　來間啓伸
木下修司　角岡幹篤　前田直人　横山大作

研究会リエゾン委員
阿萬裕久 (FOSE)　伊藤貴之 (ISS)　栗原聡 (EIN)
東藤大樹 (MACC)　土肥拓生 (MLSE)　名倉正剛 (rePiT)
西崎真也 (PPL)　松野裕 (DSW)

### 3.3 大会

2020 年 9 月 8 日〜10 日に，第 37 回大会を開催した．また 9 月 7 日には大会前夜祭イベントを開催した．今大会は，COVID-19 感染拡大の状況を鑑み，全プログラムをオンラインにて開催した．

招待講演，基礎研究賞特別講演，トップカンファレンス特別講演を企画した他，一般セッション，研究会セッション，ソフトウェア論文セッション，デモ・ポスターセッションを設けた．基礎研究賞特別講演は第 32 回大会で，研究会セッションは第 27 回大会で導入したものをそれぞれ継承したものである．第 29 回大会から大会本体の登壇発表者の条件を緩和したことから，それ以前にあった「学生セッション」等は設置しないこととし，デモ・ポスターセッションにおいて「予稿なし」のみとすることも継承した．第 27 回大会で導入した学生奨励賞および第 34 回大会で導入した優秀発表賞も継承した．さらに，第 34 回大会で導入したスポンサー募集も継承し，4 社からの支援を得た．

大会参加者は，305 名 (正会員 103 名，学生会員 12 名，一般非会員 21 名，学生非会員 160 名，招待講演者 2 名，基礎研究賞特別講演者 2 名，スポンサー枠 5 名) であった．発表件数は，招待講演 2 件 (田浦健次朗氏，石川裕氏)，基礎研究賞特別講演 2 件 (五十嵐淳氏，門田暁人氏) ，トップカンファレンス特別講演 8 件，一般セッション 13 件，研究会セッション 44 件 (FOSE: 9 件，PPL: 30 件，rePiT: 4 件，MLSE: 1 件)，ソフトウェア論文セッション 4 件，デモ・ポスターセッション 13 件であった．この他に，rePiT 企画セッションとして，「コロナ禍における実践教育・プログラミング教育オンライン化への工夫」を開催した．また，9 月 7 日には初の試みである大会前夜祭として，「ここだけの話 ズバリこの人に聞きたい！」と題したパーソナリティとゲストによるトークショー形式のイベントを開催した．このイベントは大会に参加登録しなくても誰でも無料で参加できるイベントとし，100 名以上の参加を得た．

講演論文集は Web サイトで公開した．この論文集は，大会終了後，オンライン資料として国立国会図書館に納入した．

大会における優れた登壇発表に対して与えられる高橋奨励賞は，次の 3 件である．

- 千葉 滋 (東京大学)：「ある論文誌のための査読支援システム」
- 八杉 昌宏 (九州工業大学)：「HOPE: 階層的計算省略に基づく耐障害性を備えた並列実行モデル」
- 上野 雄大 (東北大学)：「自然なデータ表現を持つ多相型言語の LLVM IR へのコンパイル方式」

学生奨励賞は，次の 5 件である．

・山田 健太郎 (名古屋大学)：「解集合プログラミングを用いた配電網問題の解法に関する一考察」
・中丸 智貴 (東京大学)：「Fluent API 生成の現実世界での利用に向けて」
・細川 夏生 (東京工業大学)：「データの可視化・文章化技術を複合させた大規模表データ探索システム」
・竹内 頼人 (名古屋大学)：「車両装備仕様問題に対する解集合プログラミングの適用」
・山崎 徹郎 (東京大学)：「他言語関数呼び出しにおける遠慮のかたまり問題の解決に向けたオブジェクトグラフの解析」

優秀発表賞は，次の 9 件である．

・千葉 滋 (東京大学)：「ある論文誌のための査読支援システム」
・上野 雄大 (東北大学)：「自然なデータ表現を持つ多相型言語の LLVM IR へのコンパイル方式」
・細川 夏生 (東京工業大学)：「データの可視化・文章化技術を複合させた大規模表データ探索システム」
・寺中 靖幸 (大阪工業大学)：「ビデオ会議システムにおけるリモートモブプログラミングのための役割ごと支援機能の検討」
・劉 宇澤 (東京大学)：「教師ラベルなし単言語学習データのみでの cross-language コードクローン検出の試み」
・小林 友明 (東北大学)：「より清浄な Stream Fusion」
・内藏 理史 (総合研究大学院大学/国立情報学研究所)：「Graded Algebraic Theories」
・脇坂 遼 (京都大学)：「量子ビット連結性制約検査のための依存型システム」
・森畑 明昌 (東京大学)：「ブラックボックステストによる軽量なリダクションループ自動並列化」

第 37 回大会の役員は次の通りである．本大会では第 34 回で導入した運営副委員長，プログラム副委員長を設けた．

| | |
|---|---|
| 大会委員長 | 鵜林尚靖 |
| 運営委員長 | 亀井靖高 |
| 運営副委員長 | 東藤大樹 |
| プログラム委員長 | 住井英二郎 |
| プログラム副委員長 | 今井健男，松田一孝 |
| 広報委員長 | 前田敦司 |

プログラム委員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 住井英二郎 | 今井健男 | 松田一孝 | 綾塚祐二 |
| 松崎公紀 | 門田暁人 | 名倉正剛 | 石川冬樹 |
| 石井大輔 | 河合栄治 | | |

大会担当理事　野田夏子　沢田篤史

### 3.4 講習会

本年度は実施しなかった。

3.5 研究会

2020 年度は，次の 8 研究会が活動した．各研究会の主な活動は下記の通りである．

(1) 「プログラミング論」研究会（主査：八杉 昌宏）

**2020 年度運営体制**

a) 主査

八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)

b) リエゾン企画委員

西崎 真也 (東京工業大学)

c) 運営委員

笹田 耕一 (クックパッド)，末永 幸平 (京都大学)，寺内 多智弘 (早稲田大学)，中澤 巧爾 (名古屋大学)，西崎 真也 (東京工業大学)，番原 睦則 (名古屋大学)，平石 拓 (京都大学)，松崎 公紀 (高知工科大学)，八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)

**第 37 回大会研究会セッション，トップカンファレンス特別講演の実施**

セッションコーディネータ：松崎 公紀 (高知工科大学)

PPL セッション，PPL・一般セッションとして，発表 30 件 (通常発表 28 件，ショート発表 2 件) からなる 7 セッションを実施した．また，7 件のトップカンファレンス特別講演を実施した．

**第 18 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール (PPL Summer School 2020) の主催**

当初は「2020 年 9 月 7 日 日本ソフトウェア科学会第 37 回大会 併設」として開催予定だったが，COVID-19 のため 2020 年度の企画を中止した．「第 18 回 PPL サマースクール」としては延期という位置付けとする．

**FLOPS 2020 (The 15th International Symposium on Functional and Logic Programming) の主催**

In Cooperation With: ACM SIGPLAN

日時・場所: 2020 年 9 月 14〜16 日，オンライン

PC Co-Chairs: Keisuke Nakano (Tohoku University), Konstantinos Sagonas (Uppsala University), General Chair: Keisuke Nakano (Tohoku University), Local Co-Chairs: Kazuyuki Asada (Tohoku University), Ryoma Sin'ya (Akita University), Katsuhiro Ueno (Tohoku University)

予定変更：当初は 2020 年 4 月 23〜25 日に秋田市での開催を予定していたが，COVID-19 拡大防止のため延期の上，オンライン開催（Zoom，Slack，Gather を利用）とした．

参加登録費：無料

参加人数：176 名

**第 23 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2021) の主催**

日時・場所：2021 年 3 月 9 日 (火)〜11 日 (木)，オンライン

プログラム共同委員長：上野 雄大 (東北大学)，海野 広志 (筑波大学)，組織委員長：関山 太朗 (NII)

開催形式：当初は研究会形式にて名古屋市での開催を想定していたが，COVID-19 拡大

防止のためオンライン開催（Zoom，Gather，Slack を利用）とした．カテゴリ 1〜4 の発表と招待講演で構成.
参加登録費：一般会員 7,000 円，一般非会員 9,000 円，学生（会員・非会員を問わず）無料
参加人数：一般会員 62 名，一般非会員 26 名，学生 181 名（学生については会員・非会員の別を収集していない）
発表数：招待講演 2，カテゴリ 1 (国内外で未発表の論文の発表) 10，カテゴリ 2 (国際会議・学術雑誌等で既発表の論文の紹介) 10，カテゴリ 3 (ポスター・デモ発表) 48，カテゴリ 4 (サーベイ・チュートリアルの発表) 1.

(2) 「マルチエージェントと協調計算」研究会（主査：大囿忠親）

**2020 年度運営体制**

a) 主査
大囿忠親 (名古屋工業大学)
b) リエゾン企画委員
東藤大樹 (九州大学)
c) 運営委員
櫻井祐子 (産業技術総合研究所)
清雄一 (電気通信大学)

**Symposium on Multi Agent Systems for Harmonization 2020 Summer Symposium (SMASH20 Suymmer) 開催（情報処理学会 ICS 研究会および人工知能学会 データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会との共催）**

日時：2020 年 9 月 14 日、16 日
会場：オンライン
参加者数 40
（発表数 21）

**Symposium on Multi Agent Systems for Harmonization 2020 Winter Symposium (SMASH20 Winter) 開催（情報処理学会 ICS 研究会、人工知能学会 データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会、および電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会との共催）**

日時：2020 年 12 月 28 日
会場：オンライン
参加者数 12
（発表数 2 (招待講演)）

**その他**

・クラウドソーシング研究会に協賛

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会（主査：寺田努）

**2020 年度運営体制**

a) 主査
寺田努 (神戸大)
b) リエゾン企画委員
伊藤貴之 (お茶大)
c) 運営委員

櫻井祐子 (産業技術総合研究所)
綾塚祐二 (クレスコ) ，五十嵐悠紀 (明治大)，伊藤貴之 (お茶大)，丸山一貴 (明星大)，宮下芳明 (明治大)，脇田建 (東工大)

**第 28 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS 2020) 主催**

日時：2020 年 12 月 16–18 日
場所：オンライン
プログラム委員長：寺田 努
実行委員長：五十嵐悠紀
副実行委員長：真鍋 宏幸

**その他**

・コンピュータソフトウェア誌への WISS 2020 推薦論文の提案　（WISS2020 のロングペーパー採録論文のうち 7 件について著者へ投稿を推奨した）
・情報処理学会インタラクション 2021 に協賛
・エンタテインメントコンピューティング 2020 に協賛

(4)　「ソフトウェア工学の基礎」研究会（主査：門田暁人）

**2020 年度運営体制**

a) 主査
門田暁人（岡山大学）
b) リエゾン企画委員
阿萬 裕久（愛媛大学）

**第 27 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE2020**

日時：2020 年 11 月 28–30 日
場所：オンライン開催
プログラム委員長：
石尾 隆（奈良先端科学技術大学院大学），天嵜 聡介（岡山県立大学）

主催：　日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎研究会
共催：　IEEE Computer Society Japan Chapter
協賛：　情報処理学会 ソフトウェア工学研究会
電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会
電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学研究会
投稿数：フルペーパー 13 件，ショートペーパー 6 件，
ライブ論文 15 件，デモ・ポスター 15 件
合計 46 件
参加者数： 100 名
内訳：　一般・会員 35 名，一般・非会員 15 名，招待 1 名
学生・会員 0 名，学生・非会員 56 名
コンピュータソフトウェア誌への研究会推薦論文：
通常論文として 1 件， レター論文として 4 件を推薦.

**日本ソフトウェア科学会大会 FOSE 研究会セッション**

日時： 2020 年 9 月 8 日–10 日
場所： オンライン

コーディネータ：門田 暁人 (門田暁人)

発表件数：8 件

**コンピュータソフトウェア「ソフトウェア工学の基礎」特集号**

特集号編集委員: 門田暁人（代表者，岡山大学），石尾隆（ゲストエディタ、奈良先端科学技術大学院大学），天嵜聡介（ゲストエディタ、岡山県立大学），阿萬裕久（愛媛大学），沢田篤史（南山大学），杉山安洋（ゲストエディタ、日本大学），花川典子（阪南大学），高田眞吾（慶應義塾大学），鷲崎弘宜（ゲストエディタ、早稲田大学）

投稿数：9 件（通常 4 件 レター 5 件）

FOSE2020 開催報告 (トピックス)

(5) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田俊行）

昨年度までより引き続き，ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的に活動を行った.

**2020 年度運営体制**

a) 主査

前田 俊行 (千葉工業大学)

b) リエゾン企画委員

松野 裕 (日本大学)

c) 運営委員

阿部 洋丈 (筑波大学), 石井 大輔 (北陸先端科学技術大学院大学), 松野 裕 (日本大学), 大場 勝 (日産自動車), 木下 修司 (東京都立産業技術大学院大学)

**第 18 回ディペンダブルシステムワークショップ (DSW2020) の開催**

日時: 2021 年 3 月 18 日 (木)・19 日 (金)

場所: オンライン

幹事: 松野 裕, 大場 勝, 石井 大輔, 阿部 洋丈, 木下 修司

本分野の研究者間・学生間のつながりの構築を目指してワークショップを開催した．総勢 40 名の参加登録があり，4 件の発表があった．また 4 件の招待講演を行った.

(6) 「ネットワークが創発する知能」研究会（主査：栗原聡）

**2020 年度運営体制**

a) 主査: 栗原聡 (慶應義塾大学)

主幹事 風間一洋 (和歌山大学)，鳥海不二夫（東京大学）

b) リエゾン企画委員

栗原聡 (慶應義塾大学)

c) 運営委員: 風間一洋 (和歌山大学)，内藤祐介 (人工生命研究所)，中島秀之 (札幌市立大学)，廣津登志夫 (法政大学)，松尾豊 (東京大学)

**2020 年度は活動なし.**

(7) 「実践的 IT 教育」研究会 (主査：吉田 則裕)

**研究会運営委員会の構成**

a) 主査

吉田 則裕（名古屋大学）

b) リエゾン企画委員

名倉 正剛 （南山大学）

c) 運営委員

井垣 宏 （大阪工業大学, 伊藤 恵 （公立はこだて未来大学）, 大久保 隆夫 （情報セキュリティ大学院大学）, 大場 みち子 （公立はこだて未来大学）, 粂野 文洋 （日本工業大学）, 田原 康之 （電気通信大学）, 橋本 正樹（情報セキュリティ大学院大学）, 櫨山 淳雄 （東京学芸大学）, 藤原 賢二（豊田工業高等専門学校）, 本田 澄 （大阪工業大学）森本 千佳子 （東京工科大学）, 吉岡 信和 （国立情報学研究所）

**第 37 回大会研究会 rePiT セッションの実施**

4 件の登壇発表からなるセッションを実施した．また，rePiT 企画セッションを開催し，8 名のパネリストを中心に会場参加者と議論を行った．

**第 7 回実践的 IT 教育研究シンポジウムの主催**

日程：2021 年 1 月 20 日（水）

開催場所：（オンライン開催）

主催：日本ソフトウェア科学会 実践的 IT 教育研究会

共催：文部科学省 成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成事業 enPiT2

協賛：情報処理学会 ソフトウェア工学研究会（SIGSE）

9:50 開会

9:55-10:55 [一般講演 1] PBL 分析・評価

〇ソフトウェア開発 PBL における実装工程でのファンク ションポイントを用いた個人貢献評価手法の提案（S）

七夕 昂陽（東京学芸大学），山田 侑樹（東京学芸大学），古川 貴一（東京学芸大学），櫨山 淳雄（東京学芸大学）

〇 PBL 型ソフトウェア開発研修における気づき分析（S）

飯村 結香子（NTT）， 斎藤 忍（NTT）

〇 PBL におけるコミュニケーションツールを利用した振り返り活動と非認知能力の関係性分析（S）

松山 航（公立はこだて未来大学），大場 みち子（公立はこだて未来大学）， 伊藤 恵（公立はこだて未来大学）

〇 COVID-19 パンデミック下でのオンライン遠隔ソフトウェア開発 PBL の実践報告（S）

古川 貴一（東京学芸大学），山田 侑樹（東京学芸大学），櫨山 淳雄（東京学芸大学）

11:05-12:00 [一般講演 2] 拠点間 PBL

〇 PBL プログラム実施拠点間連携による合同発表会実施の試み（S）

伊藤 恵（公立はこだて未来大学），吉岡 廉太郎（会津大学）， 堀川 三好（岩手県立大学），佐藤 和彦（室蘭工業大学）

〇 Basic SecCap におけるオンラインセキュリティ演習の実施方法の分析（S）

小谷 大祐（京都大学），加藤 大弥（慶應義塾大学），和泉 諭（仙台高等専門学校/東北大学）

〇大学学部生を対象とした実践的 IT 人材育成プログラム enPiT2 における教育効果の測定と評価（L）

山本 雅基（名古屋大学），小林 隆志（東京工業大学），宮地 充子（大阪大学），沢田 篤史（南山大学），岡村 耕二（九州大学），佐藤 和彦（室蘭工業大学），奥野 拓（公立はこだて未来大学），粂野 文洋（日本工業大学），井上 克郎（大阪大学）

12:00-13:00 昼休憩

13:00-14:15 [招待講演]

「学習環境のイノベーション」
山内 祐平 教授 (東京大学大学院 情報学環・学際情報学府)
14:25-15:55 [一般講演 3] チーム開発
〇リモートモブプログラミングにおけるコミュニケーション支援を目的とした発話状況可視化機能の検討（L）
濱田 優弥（大阪工業大学），寺中 靖幸（大阪工業大学），高山 裕暉（大阪工業大学），井垣 宏（大阪工業大学）
〇大学研究室におけるアジャイルプロセスの提案と実践（L）
小林 孝有（日本大学），栗間 智大（日本大学），杉田 卓斗（日本大学），村上 知里（日本大学），松野 裕（日本大学）
〇組込みシステム教育用マイコンボードを用いた高専における実践教育（L）
山本 椋太（名古屋大学），阿部 司（苫小牧工業高等専門学校），木下 大輔（フラー株式会社），吉村 斎（苫小牧工業高等専門学校）
〇リモート型チーム活動演習における教員向けチーム活動状況可視化アプリの開発（S）
亀沢 佑一（琉球大学），國田 樹（琉球大学）
16:05-17:25 [一般講演 4] 受講者評価
〇理解度確認テスト結果および理解度確認テスト合格週推定結果に対応する成績管理アプリケーション（L）
山本 茉奈（公立はこだて未来大学），富樫 北斗（公立はこだて未来大学），大西 花恋（公立はこだて未来大学），竹川 佳成（公立はこだて未来大学），平田 圭二（公立はこだて未来大学）
〇マルチエージェントシミュレーションによる理解度確認テストの成績予測モデルの構築（L）
菅原 淳（公立はこだて未来大学），竹川 佳成（公立はこだて未来大学），平田 圭二（公立はこだて未来大学）〇プログラミング演習における学生のプログラミング行動推定のための授業環境と実験環境の比較（S）
堀口 諒人（大阪工業大学），筒井 善規（大阪工業大学），井垣 宏（大阪工業大学）
〇教育者と受講者間の関係性が解説動画視聴選好に与える影響の調査（S）
佐藤 研（公立はこだて未来大学），竹川 佳成（公立はこだて未来大学），平田 圭二（公立はこだて未来大学）
17:25-17:30 クロージング

**コンピュータソフトウェア誌 論文「実践的 IT 教育」特集の発行**

論文誌「実践的 IT 教育」特集号を発行（2021 年 2 月刊行）．掲載論文全 6 篇のうち rePiT シンポジウム 2020 と連動して応募された計 3 篇の論文を掲載した．

(8) 「機械学習工学」研究会 (主査：石川冬樹)

**2020 年度運営体制**

a) 主査
石川 冬樹（国立情報学研究所）
b) リエゾン企画委員
土肥 拓生（ライフマティクス）
c) 運営委員
今井 健男（Idein），鵜林 尚靖（九州大学），江澤 美保（株式会社クレスコ），太田 満久

（ブレインパッド），鎌田 篤慎（ヤフー），竹内 広宜（武蔵大学），土肥 拓生（ライフマティクス），橋本 順之（グリー），原 聡（大阪大学），宮崎 崇史（ヤフー），丸山 宏（Preferred Networks），守田 憲司（Preferred Networks），吉岡 信和（国立情報学研究所），吉崎 亮介（キカガク），吉田 則裕（名古屋大学）

**2020 年活動報告**

2020/07/02-07/04 第 3 回機械学習工学ワークショップ（MLSE 夏合宿 2020）・オンライン 2020/11/06 機械学習基盤 本番適用と運用の事例・知見共有会・オンライン 2020/11/10-11/12 第 2 回 AI/IoT システム安全性シンポジウム・オンライン 2020/12/01 iMLSE 2020: The 2nd International Workshop on Machine Learning Systems Engineering (in Conjunction with APSEC 2020)

### 3.6 共催・協賛

会議等の共催・協賛・後援の承認件数は以下の通りであった.

共催： 0 件　　協賛： 8 件　　後援： 2 件

### 3.7 広報関係

本学会の Web ページ（http://www.jssst.or.jp/）および会員メーリングリスト（jssst_members@jssst.or.jp）を通じて，会員への情報提供を行った．Twitter のアカウント (JSSST_Info) を通じた広報活動も継続している．授賞については、Web ページ、Twitter を通じて、なるべく早く公知している.

### 3.8 基礎研究賞

ソフトウェア科学分野の基礎研究において顕著な業績を挙げた研究者に対して，基礎研究賞を授与しその功績を称える制度を 2008 年度に設けた．12 年目にあたる 2020 年度は，以下の 2 名を選定した.

・千葉滋氏 (東京大学) 授賞業績: プログラミング言語，特にメタプログラミングに関する研究

授賞理由：千葉滋氏はオブジェクト指向言語，特にメタプログラミング機構を持つオブジェクト指向言語処理系に関して国際的な研究成果を挙げている．千葉氏が作成した OpenC++ [1] は，Common Lisp Object System (CLOS) などで用いられていたメタオブジェクトプロトコルの概念を C++ 言語で実現する方法を示したものである．そこで提唱されたコンパイル時自己反映計算という手法は，その後様々なプログラミング言語でも実践される先駆的なものであった．また Javassist [2] はコンパイル時自己反映計算を Java 言語のクラスロード時に発展させた処理系である．Javassist は JBoss フレームワークのアスペクトプログラミング機能の実現に用いられるなど，研究のための開発にとどまらず，広く使用されるソフトウェアとして普及させている．Javassist の業績はまた The AITO Test of Time Winners for 2020 を受賞するなど，国際的にも高く評価されている．また，種々の国内外の会議の委員長や委員を務めるなど，プログラミング言語研究の第一任者として分野の発展に大きく寄与している．よって本会は千葉滋氏に基礎研究賞を授与することとした.

出典：

1. Shigeru Chiba: A Metaobject Protocol for C++. In Proceedings of the ACM Conference on Object-Oriented Programming Systems, Languages, and Applications (OOPSLA), page 285-299, October 1995.

2. Shigeru Chiba: Load-time Structural Reflection in Java. In Proceedings of the European Conference on Object-Oriented Programming (ECOOP), LNCS 1850, Springer Verlag, page 313-336, 2000.

・増井俊之氏 (慶応大学)

授賞業績:　ユーザインタフェースシステムおよび予測型日本語入力システムに関する研究

授賞理由：増井俊之氏は長年にわたりユーザインタフェースシステムの基本技術の研究を行なっており，研究成果の多くが社会で広く利用されている．増井氏が 2003 年に開発した予測型日本語入力システムは，ソニーの携帯電話で商品化された後，他社製品にも採用され日本において広く利用されている [1,2,3]．さら

に，増井氏は Steve Jobs 氏に招聘されて 2006 年から米国 Apple Inc. に勤務し，iPhone の「フリック入力システム」を開発した [4]．フリック入力はスマートフォンの日本語入力手法として人気を呼び，2021 年現在，日本の携帯電話やスマートフォンの日本語入力のほぼすべてが増井氏の手法にもとづいているといえる．増井氏は現在慶應義塾大学に勤務しながら，Gyazo，Scrapbox，Helpfeel などの有用なシステムを開発し，京都のベンチャー企業である Nota Inc. の CTO としてサービスを提供している．増井氏はユーザインタフェースの研究者が議論を行なうためのワークショップ「WISS」(Workshop on Interactive Systems and Software) を 1993 年に設立した．WISS はソフトウェア科学会のワークショップとして毎年開催されており，ユーザインタフェース研究で最もアクティブな学会として知られている．他にも，増井氏は情報処理学会ヒューマンインタフェース研究会の主査及び情報処理学会の理事を務めるなど，この分野の発展に大きく貢献している．増井氏は学会論文以外にも，200 本を超える雑誌記事の執筆や，ユーザインタフェースにかかわる書籍の出版（光文社新書）などを通じて，新しいユーザインタフェースの考え方を世間に広めてきた．以上の顕著な業績と貢献により，日本ソフトウェア科学会は，増井俊之氏に基礎研究賞を授与することとした．

出典：

1. Toshiyuki Masui. An efficient text input method for pen-based computers. In Proceedings of the SIGCHI Conference on Human Factors in Computing Systems (CHI '98). 328335.

2. Toshiyuki Masui, POBox: An Efficient Text Input Method for Handheld and Ubiquitous Computers. In: Gellersen HW. (eds) Handheld and Ubiquitous Computing. HUC 1999. Lecture Notes in Computer Science, vol 1707. Springer, Berlin, Heidelberg.

3. Toshiyuki Masui. Text input device and method. US Patent 5,959,629. 1999/9/28.

4. Deborah Eileen Goldsmith, Takumi Takano, Toshiyuki Masui, Leland Douglas Collins, Yasuo Kida, Ken Kocienda. Input methods for device having multi-language environment. US Patent 8,661,340. 2014/2/25.

2020 年度の基礎研究賞選定委員会の構成は次の通りであった．

増原英彦 (理事長)，河野健二（編集委員長）五十嵐健夫　井上克郎　大須賀昭彦　小林直樹　丸山宏

### 3.9 功労賞

これまでの学会活動に対して特に貢献が顕著と認められる会員に対し功労賞を授与して，その功績を称える制度を 2004 年度に設けた．2020 年度は，以下の 2 名を選定した．

・丸山 宏氏（Preferred Networks）

授賞理由: 丸山氏は自然言語処理・機械翻訳，XML や Web サービスなど先端的な研究分野の開拓を行うとともに，それら研究技術の国際標準化にも大きな貢献を果てしてきた．また，複数の研究機関・企業における研究マネジメントを通して，

ソフトウェアを核とする分野横断的な研究開発を主導してきた．ソフトウェア科学会においては，2011 年度から 2014 年度まで監事，2015 年度は副理事長，2016 年度から 2018 年度まで理事長として，本会の活性化を行ってきた．2018 年度に発足した機械学習工学研究会には発起人・幹事として大きな役割を果たし，その後の発展に尽力してきた．本研究会は，機械学習工学という新しいパラダイムを明確に打ち立て，ソフトウェア科学に携わる多くの研究者と実践者に影響を与えるものとなっている．以上の通り，丸山氏はソフトウェア科学会に対する貢献，および本学会活動に対して特に貢献が顕著と認められる．よって本学会は同氏の功績を讃え，功労賞を授与する．

・権藤 克彦氏（東京工業大学）

授賞理由: 権藤氏は長くソフトウェア工学の研究にたずさわり，特にソフトウェア解析，ソフトウェア開発ツール，プログラム理解，ソフトウェア可視化，教育用ソフトウェアなどのテーマに関して多くの業績を挙げている．ソフトウェア科学会においては，ソフトウェア工学研究会の運営に深く関与し，ソフトウェア工学の基礎ワークショップ (FOSE) プログラム委員長や研究会主査を歴任している．また，1997 年から 2014 年まで本学会編集委員としてコンピュータソフトウェア誌の刊行を支えてきた．特に 2008 年から 2013 年までは副編集長として，また 2010 年から 2012 年までは本会理事 (編集担当) として，2013 年は本会副理事長として，コンピュータソフトウェア誌と本学会全体の両方にまたがり，その運営に大きな貢献を行っている．なかでも，コンピュータソフトウェア誌にソフトウェア論文とレター論文を創設においては主導的な役割を果たしている．以上の通り，権藤氏はソフトウェア科学会に対する貢献，および本学会活動に対して特に貢献が顕著と認められる．よって本学会は同氏の功績を讃え，功労賞を授与する．

2020 年度の功労賞選考委員会の構成は次の通りであった．

増原 英彦 (委員長)

大沢 英一　大堀 淳　風間 一洋　加藤 和彦　河野 健二　柴山 悦哉　玉井 哲雄　萩谷 昌己　本位田 真一

3.10 フェロー

ソフトウェア科学の分野における発展に対して特に貢献が顕著と認められる会員に対しフェローの称号を授与して，その功績を称える制度を 2004 年度に設けた．2020 年度は，以下の 2 名を選定した．

・松岡 聡氏（理化学研究所）

授賞理由: 松岡氏は，高性能計算ソフトウェアの研究やスーパーコンピュータ（スパコン）の開発において長年にわたる顕著な業績をあげてきた．特に，並列オブジェクト指向言語，高性能 JIT コンパイラ，異種混合プロセッサの活用技術，省電力高性能ソフトウェア，高性能ビッグデータ基盤技術などの多数の分野において主宰プロジェクトを立ち上げてきた．また東京工業大学 TSUBAME スパコンシリーズの開発責任者を長年務め，スパコン開発と左記プロジェクト等の研究を両輪として，多数の研究業績をあげてきた．これらの成果は国内外から高く評価され，ACM フェロー (2011 年)，文部科学大臣表彰科学技術賞 (2012 年)，IEEE Computer Society シドニー・ファーンバック賞 (2014 年) をはじめ，多数の受賞歴を持つ．さらには左記のような研究成果が，同氏がセンター長を務める理化学研究所計算科学研究センターのスパコン「富岳」の独自アーキテクチャに結びつき，

スパコンランキング四冠 (2020 年 6 月に Top500, HPCG, Graph500,HPL-AI において世界一) という顕著な結果をあげた．以上のように，高性能計算ソフトウェアおよびスパコン開発分野における松岡氏の功績は顕著であり，本学会はこれを称え，フェローの称号を授与する．

・小林 直樹氏（東京大学）

授賞理由: 小林氏は，プログラミング言語の基礎理論，とりわけプログラム解析・検証のための型システムおよび高階モデル検査において顕著な業績をあげてきた．1990 年代後半から 2000 年代にかけては，並行プログラムのための型システム，特に，デッドロックやライブロックを起こさないことを保証するための型システムなどの研究を行い，並行プログラムの基礎理論研究に大きな影響を与えている．2000 年代末からは，関数型プログラムのためのモデル検査である高階モデル検査の研究に取り組み，それまでは理論的な興味対象でしかなかった higher-order recursion scheme と呼ばれる高階木文法のためのモデル検査問題 (HORS モデル検査) が関数型プログラムの検証に応用できることを示した．さらに，高階モデル検査のための新しいアルゴリズムとそれに基づく高階モデル検査器を世界で初めて開発し，HORS モデル検査問題は時間計算量が最悪 k 重指数時間であるにもかかわらず，多くのプログラム検証問題については現実的な時間で解けることを示すなど，ブレークスルーとなる業績をあげ，プログラム検証の研究を国際的にリードしてきた．さらに，最近では，HFL と呼ばれる高階不動点論理を使った高階モデル検査の研究を推進している．小林氏の研究活動は国際的にも広く認知され，理論計算機科学分野のトップカンファレンスである LICS をはじめとして，ICALP Track B, APLAS, FSCD のプログラム委員長や，ACM POPL, LICS, ESOP, CONCUR, SAS などを含む理論計算機科学，プログラミング言語，プログラム検証分野の多数の国際会議プログラム委員，論文誌 Logical Methods in Computer Science の編集委員を務めている．本学会の活動においても，企画委員，PPL ワークショッププログラム共同委員長，プログラミング論研究会運営委員および主査，第 22 回大会運営委員長を務めるなど本学会の発展にも尽力している．以上のように，小林氏は，プログラミング言語の基礎理論分野において顕著な功績をあげてきた．よって本学会はこれを称え，フェローの称号を授与する．

2020 年度のフェロー選考委員会の構成は次の通りであった．

増原 英彦 (委員長)

大沢 英一　大堀 淳　風間 一洋　加藤 和彦　河野 健二　柴山 悦哉　玉井 哲雄　萩谷 昌己　本位田 真一

4. 選挙

2021 年度定時社員総会で任期満了となる役員に対する選挙は，2020 年 11 月 2 日に公示され，2021 年 1 月 18 日まで候補の推薦を受け付けた．その結果，役員選挙候補者（理事）として 7 名，役員選挙候補者（監事）として 1 名の立候補があった．全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され，正会員による投票に付された．投票は，2021 年 3 月 1 日から 2021 年 3 月 15 日までの期間に行われた．同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われた．結果は次の通りであった．

役員候補者（理事）選挙　選出

綾塚 祐二　井上 拓　鵜川 始陽
鵜林 尚靖　馬谷 誠二　高田 広章
野田 夏子

役員候補者（監事）選挙　選出
大場 みち子

役員候補者選考委員　信任
加藤和彦　萩谷昌己　中島震　田中二郎　徳田英幸

役員選挙候補者（理事・監事）全員がそれぞれ，社員総会における役員選任の対象候補者として選出され，また，役員候補者選考委員全員が信任を受けた．

なお，この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りである．

選挙管理委員会
河野健二　佐藤周行　吉田健一

# 収支計算書

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

（単位：円）

| 科　　目 | 予算額 | 決算額 | 差　異 |
|---|---|---|---|
| １．事業活動収入 | | | |
| 学会本部事業 | 14,625,000 | 13,325,222 | 1,299,778 |
| 入会金・会費収入 | 8,900,000 | 9,397,000 | △ 497,000 |
| 大会収入 | 2,000,000 | 948,036 | 1,051,964 |
| 機関誌収入 | 3,325,000 | 2,875,000 | 450,000 |
| 講習会収入 | 200,000 | 0 | 200,000 |
| 雑収入 | 200,000 | 105,186 | 94,814 |
| 基礎研究賞事業 | 200,000 | 0 | 200,000 |
| 基礎研究賞副賞収入 | 200,000 | 0 | 200,000 |
| 研究会事業 | 23,450,000 | 3,036,108 | 20,413,892 |
| PPL | 6,900,000 | 1,018,017 | 5,881,983 |
| MACC | 100,000 | 30,000 | 70,000 |
| ISS | 8,000,000 | 100,022 | 7,899,978 |
| FOSE | 4,000,000 | 1,030,023 | 2,969,977 |
| DSW | 600,000 | 0 | 600,000 |
| EIN | 150,000 | 0 | 150,000 |
| rePiT | 200,000 | 0 | 200,000 |
| MLSE | 3,500,000 | 858,046 | 2,641,954 |
| 事業活動収入計 | 38,275,000 | 16,361,330 | 21,913,670 |
| ２．事業活動支出 | | | |
| 学会本部事業 | 14,625,000 | 13,649,103 | 975,897 |
| 研究活動費 | 295,000 | 311,520 | △ 16,520 |
| 大会業務費 | 1,200,000 | 370,894 | 829,106 |
| 機関誌購入費 | 8,500,000 | 8,607,335 | △ 107,335 |
| 機関誌業務費 | 500,000 | 521,745 | △ 21,745 |
| 講習会業務費 | 200,000 | 0 | 200,000 |
| 委託手数料 | 230,000 | 225,266 | 4,734 |
| 租税公課 | 400,000 | 218,700 | 181,300 |
| 事務局費 | 2,600,000 | 2,570,810 | 29,190 |
| 事務局変動費 | 440,000 | 446,159 | △ 6,159 |
| 雑費 | 250,000 | 376,674 | △ 126,674 |
| 予備費 | 10,000 | 0 | 10,000 |
| 基礎研究賞事業 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 基礎研究賞副賞支出 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 研究会事業 | 23,650,000 | 2,748,546 | 20,901,454 |
| PPL | 6,900,000 | 882,434 | 6,017,566 |
| MACC | 100,000 | 80,414 | 19,586 |
| ISS | 8,100,000 | 291,081 | 7,808,919 |
| FOSE | 4,100,000 | 844,742 | 3,255,258 |
| DSW | 600,000 | 89,976 | 510,024 |
| EIN | 150,000 | 0 | 150,000 |
| rePiT | 200,000 | 15,366 | 184,634 |
| MLSE | 3,500,000 | 544,533 | 2,955,467 |
| 事業活動支出計 | 38,475,000 | 16,597,649 | 21,877,351 |
| 当期収支差額 | △ 200,000 | △ 236,319 | 36,319 |
| 前期繰越収支差額 | 41,126,450 | 41,126,450 | 0 |
| 次期繰越収支差額 | 40,926,450 | 40,890,131 | 36,319 |

# 貸借対照表

2021年 3月31日現在

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

（単位：円）

| 科　　目 | 当年度 | 前年度 | 増　減 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ　資産の部 | | | |
| １．流動資産 | | | |
| 現金預金 | 41,971,811 | 42,261,131 | △ 289,320 |
| ゆうちょ銀行振替口座 | 3,887,927 | 4,471,910 | △ 583,983 |
| 普通預金 | 27,942,873 | 27,168,744 | 774,129 |
| 三井住友銀行/大塚支店 | 4,731,760 | 1,333,963 | 3,397,797 |
| 三井住友銀行/大塚支店(緊急対応費) | 888,429 | 888,429 | 0 |
| ｼﾞｬﾊﾟﾝﾈｯﾄ銀行/すずめ支店 | 4,961,917 | 7,962,388 | △ 3,000,471 |
| ｼﾞｬﾊﾟﾝﾈｯﾄ銀行/すずめ支店(大会) | 4,422,374 | 3,845,232 | 577,142 |
| ゆうちょ銀行/008支店 | 9,627,765 | 9,628,104 | △ 339 |
| ゆうちょ銀行/008支店(基礎研究賞口) | 3,310,628 | 3,510,628 | △ 200,000 |
| 各研究会口座 | 10,141,011 | 10,620,477 | △ 479,466 |
| PPL/JNB | 2,929,782 | 2,195,711 | 734,071 |
| PPL/FLOPS/七十七 | 0 | 500,814 | △ 500,814 |
| EIN/JNB | 17,346 | 17,346 | 0 |
| DSW/JNB | 381,412 | 471,388 | △ 89,976 |
| ITECH/JNB | 0 | 888,704 | △ 888,704 |
| FOSE/JNB | 3,237,920 | 3,028,637 | 209,283 |
| ISS/JNB | 2,319,620 | 2,510,679 | △ 191,059 |
| MACC/JNB | 733,520 | 783,934 | △ 50,414 |
| rePiT/JNB | 88,186 | 103,552 | △ 15,366 |
| MLSE/JNB | 433,225 | 119,712 | 313,513 |
| 未収金 | 1,137 | 149,897 | △ 148,760 |
| 未収金/PPL | 361,840 | 0 | 361,840 |
| 前払費用 | 0 | 16,656 | △ 16,656 |
| 流動資産合計 | 42,334,788 | 42,427,684 | △ 92,896 |
| 資産合計 | 42,334,788 | 42,427,684 | △ 92,896 |
| Ⅱ　負債の部 | | | |
| １．流動負債 | | | |
| 未払金 | 510,907 | 745,916 | △ 235,009 |
| 未払金/PPL | 459,514 | 0 | 459,514 |
| 前受会費 | 289,000 | 295,000 | △ 6,000 |
| 預り金(源泉所得税) | 15,236 | 48,318 | △ 33,082 |
| 仮受金 | 0 | 12,000 | △ 12,000 |
| 未払法人税等 | 70,000 | 0 | 70,000 |
| 未払消費税等 | 100,000 | 200,000 | △ 100,000 |
| 流動負債合計 | 1,444,657 | 1,301,234 | 143,423 |
| 負債合計 | 1,444,657 | 1,301,234 | 143,423 |
| Ⅲ　正味財産の部 | | | |
| 正味財産合計 | 40,890,131 | 41,126,450 | △ 236,319 |
| 負債及び正味財産合計 | 42,334,788 | 42,427,684 | △ 92,896 |

# 財産目録

2021年 3月31日現在

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

（単位：円）

| 貸借対照表科目 | | 場所・物量等 | 使用目的等 | 金　　額 |
|---|---|---|---|---|
| (流動資産) | | | | |
| | 預金 | ゆうちょ銀行振替口座 | | 3,887,927 |
| | | 普通)三井住友/大塚 | | 4,731,760 |
| | | 三井住友/大塚（緊急対応費） | | 888,429 |
| | | ｼﾞｬﾊﾟﾝﾈｯﾄ/すずめ | | 4,961,917 |
| | | ｼﾞｬﾊﾟﾝﾈｯﾄ/すずめ（大会） | | 4,422,374 |
| | | ゆうちょ/008 | | 9,627,765 |
| | | ゆうちょ/008（基礎研究賞口） | | 3,310,628 |
| | | 各研究会 PPL/JNB | | 2,929,782 |
| | | EIN/JNB | | 17,346 |
| | | DSW/JNB | | 381,412 |
| | | FOSE/JNB | | 3,237,920 |
| | | ISS/JNB | | 2,319,620 |
| | | MACC/JNB | | 733,520 |
| | | rePiT/JNB | | 88,186 |
| | | MLSE/JNB | | 433,225 |
| | 未収金 | | | 1,137 |
| | 未収金/PPL | | | 361,840 |
| 流動資産合計 | | | | 42,334,788 |
| 資産合計 | | | | 42,334,788 |
| (流動負債) | | | | |
| | 未払金 | | | 510,907 |
| | 未払金/PPL | | | 459,514 |
| | 前受会費 | | | 289,000 |
| | 預り金(源泉所得税) | | | 15,236 |
| | 未払法人税等 | | | 70,000 |
| | 未払消費税等 | | | 100,000 |
| 流動負債合計 | | | | 1,444,657 |
| 負債合計 | | | | 1,444,657 |
| 正味財産 | | | | 40,890,131 |

# 監査報告書

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
理事長　増原　英彦　殿

私は、2020年4月1日から2021年3月31日までの2020年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

(1)　収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。

(2)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(3)　理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

2021年　5月　6　日
一般社団法人日本ソフトウェア科学会

監事　大場 みち子　㊞

# 監査報告書

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
理事長　増原　英彦　殿

私は、2020年4月1日から2021年3月31日までの2020年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

(1)　収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。

(2)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(3)　理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

2021年　5月　10日
一般社団法人日本ソフトウェア科学会

監事　吉岡信和　(印)

## 2021 年度～2022 年度役員選任の件

| 役職 | 任期 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 理事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 綾塚祐二 | 再任候補 |
| 理事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 井上　拓 | 再任候補 |
| 理事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 岩崎英哉 | 退任 |
| 理事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 鵜林尚靖 | 再任候補 |
| 理事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 馬谷誠二 | 再任候補 |
| 理事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 風間一洋 | 退任 |
| 理事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 野田夏子 | 再任候補 |
| 監事 | 2019 年度総会～2021 年度総会 | 大場みち子 | 再任候補 |
| | | | |
| 理事 | 2020 年度総会～2022 年度総会 | 五十嵐淳 | 任期中 |
| 理事 | 2020 年度総会～2022 年度総会 | 石橋圭介 | 任期中 |
| 理事 | 2020 年度総会～2022 年度総会 | 大囿忠親 | 任期中 |
| 理事 | 2020 年度総会～2022 年度総会 | 沢田篤史 | 任期中 |
| 理事 | 2020 年度総会～2022 年度総会 | 前田俊行 | 任期中 |
| 理事 | 2020 年度総会～2022 年度総会 | 増原英彦 | 任期中 |
| 監事 | 2020 年度総会～2022 年度総会 | 吉岡信和 | 任期中 |
| | | | |
| 理事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 綾塚祐二 | 再任候補 |
| 理事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 井上　拓 | 再任候補 |
| 理事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 鵜川始陽 | 新任候補 |
| 理事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 鵜林尚靖 | 再任候補 |
| 理事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 馬谷誠二 | 再任候補 |
| 理事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 高田広章 | 新任候補 |
| 理事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 野田夏子 | 再任候補 |
| 監事候補者 | 2021 年度総会～2023 年度総会 | 大場みち子 | 再任候補 |

# 2020年度の役員・各種委員

## 理事

- 理事長: 増原英彦
- 副理事長: 風間一洋
- 2020 年度選出: 五十嵐淳 石橋圭介 大囿忠親 沢田篤史 前田俊行
- 2019 年度選出: 綾塚祐二 井上 拓 岩崎英哉 鵜林尚靖 馬谷誠二 野田夏子

## 監事

- 2020 年度選出: 吉岡信和
- 2019 年度選出: 大場みち子

## 編集委員会

- 編集委員長: 河野健二
- 副編集委員長: 河内谷清久仁 横山大作
- 編集担当理事: 岩崎英哉 馬谷誠二
- 編集委員 青木利晃 阿萬裕久 綾塚祐二 五十嵐悠紀 石井大輔
  伊藤恵 鵜川始陽 河合栄治 川端英之 粂野文洋
  小宮常康 沢田篤史 島慶一 杉浦裕太 住井英二郎
  宋剛秀 高田眞吾 千葉滋 中澤仁 中野圭介
  花川典子 林晋平 松田一孝 松野裕 門田暁人
  山田浩史 吉田則裕

## 企画委員会

- 委員長: 綾塚祐二
- 企画担当理事: 綾塚祐二 五十嵐淳
- 企画委員: 青柳滋己 綾塚祐二 五十嵐淳 大越匡
  來間啓伸 角岡幹篤 前田直人 横山大作
- 研究会リエゾン委員: 阿萬裕久 伊藤貴之 栗原聡 東藤大樹 土肥 拓生
  名倉正剛 西崎真也 松野裕

## 評議員

- 2020 年選出:
  井上克郎 筧捷彦 高橋和子 佐藤周行 中島震
  上田和紀 丸山宏 中島秀之 大堀淳 二木厚吉
  中田育男 大須賀昭彦 加藤和彦 玉井哲雄 田中二郎
  本位田真一 佐々政孝 柴山悦哉 米崎直樹 大沢英一
  深澤良彰 中島秀之 中田育男 橋田浩一 平田圭二
  亀山幸義 中谷多哉子

## 役員候補者選考委員

- 2018 年選出: 加藤和彦 萩谷昌己 中島震 田中二郎 徳田英幸

## 2021 年度事業計画

1. 会員

会員を増やすための努力をするとともに，会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す．

2. 会議

2.1 2021 年度定時社員総会 (2021 年 6 月，都内もしくはオンラインにて開催)

2.2 理事会 (年 4 回以上開催)

2.3 役員会 (年 6 回以上開催)

2.4 評議員会 (年 1 回開催)

3. 事業活動

3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する．採録論文の一部は，機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する．現在の特集号の充実を維持すると同時に，本誌部分にはトピックス記事などを優先して掲載し，より広く会員に読まれることを目指す．

会員が投稿しやすい機関誌を目指し，査読から掲載までのさらなる迅速化を図る．

特集号，推薦論文，大会同時投稿論文などを通して，研究会・大会との連携を深め，掲載論文の充実を図る．

読者にとって親しみやすい解説論文の掲載を目指す．

3.2 大会

第 38 回大会を以下の要領で開催する．

| | |
|---|---|
| 日　時： | 2021 年 9 月 1 日 (水)〜3 日 (金) |
| | 併設イベントは 8 月 31 日 (火) に開催予定 |
| 会　場： | オンライン開催 |
| 大会委員長： | 増原英彦 (東京工業大学) |
| 運営委員長： | 本田晋也 (南山大学) |
| プログラム委員長： | 今井健男 (Idein) |
| プログラム副委員長： | 今井敬吾 (岐阜大学), 林晋平 (東京工業大学) |
| 広報委員長： | 山本椋太 (苫小牧高専) |
| 登壇発表申込締切： | 2021 年 7 月 2 日 (金) |
| 講演論文原稿締切： | 2021 年 8 月 10 日 (火) |
| デモ・ポスター発表申込締切： | 2021 年 8 月 10 日 (火) |

3.3 講習会

学会会員サービスとしてチュートリアル・大学基礎講座を実施し，また，大会併設企画，および大会企画の立案・実施に協力する．2020 年度の実績も踏まえ，今後の実施の方向性について検討するとともに編集委員会との連携なども模索する．

3.4 研究会

次の 8 研究会が活動する．各研究会の活動予定は下記の通りである．

(1) 「プログラミング論」研究会（主査：八杉 昌宏）

- 運営委員会の構成の変更
  任期満了により，以下の運営委員 (敬称略) の交替を予定している．
  退任 (2 名): 中澤 巧爾 (名古屋大学)，番原 睦則 (名古屋大学)
  新任 (2 名): 上野 雄大 (東北大学)，海野 広志 (筑波大学)
  2021 年度の運営委員は以下の 9 名である (五十音順).

  上野 雄大 (東北大学)，海野 広志 (筑波大学)，笹田 耕一 (クックパッド)，末永 幸平 (京都大学)，寺内 多智弘 (早稲田大学)，西崎 真也 (東京工業大学)，平石 拓 (京都大学)，松崎 公紀 (高知工科大学)，八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)
- コンピュータソフトウェア誌の「プログラミングおよびプログラミング言語」特集号
  PPL 2021 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定
- 第 18 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール
  (PPL Summer School 2021) の主催
  日本ソフトウェア科学会第 38 回大会 併設
  幹事：笹田 耕一 (クックパッド)
- 第 38 回大会 PPL セッションの実施
  大会 PPL セッションコーディネータ：平石 拓 (京都大学)
- 第 24 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ
  (PPL 2022) 主催
  日程：2022 年 3 月中
  プログラム共同委員長：稲葉 一浩 (Google)，江本 健斗 (九州工業大学)，組織委員長：新屋 良磨 (秋田大学)
- 2021 年度運営体制
  **a)** 主査
  八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)
  **b)** リエゾン企画委員
  西崎 真也 (東京工業大学)
  **c)** 運営委員
  上野 雄大 (東北大学)，海野 広志 (筑波大学)，笹田 耕一 (クックパッド)，末永 幸平 (京都大学)，寺内 多智弘 (早稲田大学)，西崎 真也 (東京工業大学)，平石 拓 (京都大学)，松崎 公紀 (高知工科大学)，八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)
  **d)** 専門委員: なし

(2) 「マルチエージェントシステムと協調計算」研究会（主査：大囿忠親）

- 合同エージェントワークショップ&シンポジウム (JAWS2021) 共催
- MACC 研究会 1 回開催
- クラウドソーシング研究会に協賛
- 2021 年度運営体制
  - **a)** 主査
    大囿忠親 (名古屋工業大学)
  - **b)** リエゾン企画委員
    東藤大樹 (九州大学)
  - **c)** 運営委員
    櫻井祐子 (産業技術総合研究所) 清雄一 (電気通信大学)
  - **d)** 専門委員
    なし

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会（主査：寺田努）

- 第 29 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS 2021)
  主催: 日本ソフトウェア科学会 インタラクティブシステムとソフトウェア研究会
  日時: 2021 年 12 月 8 日 (水)〜10 日 (金)(予定)
  場所: THE HAMANAKO (〒 431-0101 静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1)
  プログラム委員長 寺田努 (神戸大)
  実行委員長 真鍋宏幸 (芝浦工大) 副実行委員長 村尾和哉 (立命館大)
  収入予定 8,000,000 円、支出予定 8,000,000 円
- コンピュータソフトウェア誌への WISS 2021 推薦論文の提案
  (WISS 2021 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定)
- 情報処理学会インタラクション 2022 に協賛予定
- エンタテインメントコンピューティング 2021 に協賛予定
- 2021 年度運営体制
  - **a)** 主査
    寺田努 (神戸大)
  - **b)** リエゾン企画委員
    伊藤貴之 (お茶大)
  - **c)** 研究会運営委員
    綾塚祐二 (クレスコ)，五十嵐悠紀 (明治大)，伊藤貴之 (お茶大)，丸山一貴 (明星大)，宮下芳明 (明治大)，脇田建 (東工大)
  - **d)** 専門委員
    なし

(4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会（主査：沢田 篤史）

- ワークショップ 1 回開催
  第 28 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE2021
  日程：2021 年 11 月 11-13 日
  場所：福島県郡山市 および オンライン（予定）
  プログラム委員長：名倉 正剛（南山大学），関澤 俊弦（日本大学）
- コンピュータソフトウェア誌の「ソフトウェア工学の基礎」特集号（予定）
- 大会にて研究会セッションを開催（2021 年 9 月）
- 協賛予定の会議
  機械学習工学研究会 シンポジウム
  ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム（SES2021）
  ソフトウェアテストシンポジウム (JaSST)
  enPiT-Pro スマートエスイー　シンポジウム
- 2021 年度運営体制
  **a)** 主査
  沢田 篤史（南山大学）
  **b)** リエゾン企画委員
  阿萬 裕久（愛媛大学）
  **c)** 研究会運営委員
  なし
  **d)** 専門委員
  なし

(5) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田 俊行）

- 概要

  2020 年度までより引き続き，ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的にワークショップを開催する．

- 内容

  第 19 回ディペンダブルシステムワークショップ (DSW2021) の開催

  日時: 2021 年 12 月頃

  場所: 未定

  幹事: 阿部 洋丈，石井 大輔，松野 裕，大場 勝，木下 修司

- 予算

  収入：600,000 円

  支出：600,000 円

- 2021 年度運営体制

  **a)** 主査

  前田 俊行 (千葉工業大学 人工知能・ソフトウェア技術研究センター)

  **b)** リエゾン企画委員

  松野 裕 (日本大学)

  **c)** 運営委員

  阿部 洋丈 (筑波大学)，石井 大輔 (北陸先端科学技術大学院大学)，松野 裕 (日本大学)，大場 勝 (日産自動車)，木下 修司 (東京都立産業技術大学院大学)

  **d)** 専門委員

  なし

(6) 「ネットワークが創発する知能」研究会（主査：栗原 聡）

- 事業計画

  「ネットワークダイナミクス」と「ネットワークが創発する知能」をキーワードとして，コンピュータサイエンス，物理学，化学，生物学，経済学，社会学など様々な分野の研究者の交流の場を提供するとともに，当分野における高いアクティビティの発揮を目指す．これまでの論文募集型のワークショップ形式から，少数セミクローズ型の討論優先型の開催形式にシフトさせる計画である．これは，学際的な本研究会ならではの，先んじた研究テーマ開拓や研究連携の立ち上げを模索できるメリットを活かすための転換である．

- 活動予定

  JWEIN-DOCMAS 合同合宿

  日程:12 月上旬予定

  場所:未定

  プログラム委員長:未定

- 2021 年度運営体制

  **a)** 主査

  栗原聡 (慶應義塾大学)

  主幹事 風間一洋 (和歌山大学)，鳥海不二夫 (東京大学)

  **b)** リエゾン企画委員

  栗原聡 (慶應義塾大学)

  **c)** 運営委員

  栗原聡 (慶應義塾大学)，風間一洋 (和歌山大学)，内藤祐介 (人工生命研究所)，中島秀之 (札幌市立大学)，廣津登志夫 (法政大学)，松尾豊 (東京大学)

  **d)** 専門委員 (当研究会ではプログラム委員会と呼称)

  秋山英三 (筑波大学)，和泉潔 (東京大学)，今井哲朗 (東京情報大学)，岩田学 (筑波大学)，臼井翔平 (Sansan-DSOC)，岡田勇 (創価大学)，小川祐樹 (立命館大学)，海蔵寺大成 (国際基督教大学)，川村秀憲 (北海道大学)，小島一浩 (産業技術総合研究所 (AIST))，五斗進 (京都大学)，菅原俊治 (早稲田大学)，相馬亘 (日本大学)，斉藤和巳 (静岡県立大学)，佐藤進也 (日本工業大学)，榊剛史 (東京大学)，澤井秀文 (情報通信研究機構 (NICT))，諏訪博彦 (奈良先端科学技術大学院大学)，苑田義明 (三菱重工業)，高野雅典 (株式会社サイバーエージェント)，谷本潤 (九州大学)，鳥海不二夫 (東京大学)，舘健太郎 (駒沢大学)，辻竜平 (近畿大学)，中村真理 (産業技術総合研究所)，生天目章 (AFOSR)，西成活裕 (東京大学)，福田健介 (国立情報学研究所 (NII))，藤原義久 (兵庫県立大学)，前野義晴 (日本電気株式会社)，松林達史 (NTT サービスエボリューション研究所)，三宅美博 (東京工業大学)，水野誠 (明治大学)，村田剛志 (東京工業大学)，守真太郎 (北里大学)，安田雪 (関西大学)，柳井孝介 (日立製作所)，山本仁志 (立正大学)，我妻広明 (九州工業大学)

(7) 「実践的 IT 教育」研究会（主査：伊藤恵）

- 運営委員会の構成変更
  2021 年 4 月より主査は伊藤恵氏 (公立はこだて未来大学) に，またリエゾン企画委員は市川尚氏 (岩手県立大学) に交代予定である．
- 第 38 回大会研究会での企画
  今年度に引き続き，第 38 回大会でも企画セッションを実施する予定である．
- コンピュータソフトウェア誌 rePiT 特集号
  第 6 回 rePiT 特集号を組む予定である．
- 第 8 回実践的 IT 教育研究シンポジウムの開催
  2022 年 1 月頃に，第 8 回実践的 IT 教育研究シンポジウムを開催する予定である．
- 2021 年度収支計画
  収入：200,000 円
  支出：200,000 円
  収支：0 円
- 2021 年度運営体制
  **a)** 主査
  伊藤 恵 (公立はこだて未来大学)[新任]
  **b)** リエゾン企画委員
  市川 尚 (岩手県立大学)[新任]
  **c)** 運営委員
  井垣 宏 (大阪工業大学)，大久保 隆夫 (情報セキュリティ大学院大学)，大場 みち子 (公立はこだて未来大学)，粂野 文洋 (日本工業大学)，田原 康之 (電気通信大学)，名倉 正剛 (南山大学)，橋本 正樹 (情報セキュリティ大学院大学)，櫨山 淳雄 (東京学芸大学)，藤原 賢二 (豊田工業高等専門学校)，本田 澄 (早稲田大学)，槇原 絵里奈 (同志社大学)[新任]，森本 千佳子 (東京工科大学)，吉岡 信和 (国立情報学研究所)，吉田 則裕 (名古屋大学)
  **d)** 専門委員
  なし

(8) 「機械学習工学」研究会（主査：石川 冬樹）

- イベント予定
  - 2021 年 7/1-3 第 4 回機械学習工学研究会 (MLSE 夏合宿 2021)・オンライン開催
  - 勉強会・ワーキンググループ集会 8 回
- 予算案

  第 4 回機械学習工学研究会 収入 20 万 支出 20 万

  勉強会・ワーキンググループ集会 (8 回のうち 2 回招待講演や参加費・スポンサーを含むもの) 収入 20 万 支出 20 万計 収入 35 万 支出 35 万

  ※ 繰越金 64 万：無料イベントのサポート (ビデオ会議や配信の利用料等) にあてる
- 2021 年度運営体制

  **a)** 主査

  石川 冬樹 (国立情報学研究所)

  **b)** リエゾン企画委員

  鎌田 篤慎 (ヤフー)

  **c)** 運営委員

  今井 健男 (Idein)，鵜林 尚靖 (九州大学)，江澤 美保 (株式会社クレスコ)，太田 満久 (ブレインパッド)，鎌田 篤慎 (ヤフー)，竹内 広宜 (武蔵大学)，土肥 拓生 (ライフマティクス)，橋本 順之 (グリー)，原 聡 (大阪大学)，宮崎 崇史 (ヤフー)，丸山 宏 (Preferred Networks)，守田 憲司 (Preferred Networks)，吉岡 信和 (国立情報学研究所)，吉崎 亮介 (キカガク)，吉田 則裕 (名古屋大学)

  **d)** 専門委員

  なし

### 3.5 広報

本学会 Web ページ，会員メーリングリスト，Twitter 等の電子的な広報手段を整備・活用し，有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する．

### 3.6 賞の選考

基礎研究賞，研究論文賞，ソフトウェア論文賞，高橋奨励賞を選考する．

**2021 年度予算**

2021 年度の単年度予算としては収入 29,050,000 円，支出 29,700,000 円を計上している．

1. 予算方針

近年の決算においては，本学会の財務収支は，法人化と支出削減努力によって，収入が支出を上回る状況で推移していた．しかし，2018 年 12 月の会員数 (正会員：771 名，学生会員：47 名，準会員：18 名，団体会員：5 名，賛助会員：8 口) と 2021 年 1 月の会員数 (正会員：712 名，学生会員：34 名，準会員：17 名，団体会員：5 名，賛助会員：8 口) とを比較すると会員数は減少傾向にあり，今後の財務状況を注視していく必要があるとともに，正会員，学生会員ともに新規会員の方策を検討する必要がある．

2. 各費目の計上理由

入会金・会費収入予算は，前述の 2021 年 1 月の会員数 (正会員：712 名，学生会員：34 名，準会員：17 名，団体会員：5 名，賛助会員：8 口) を基に見積もっている．研究活動費に関しては，研究論文賞 2 件，ソフトウェア論文賞 2 件，高橋奨励賞 2 件分の予算，各表彰の際に手渡すトロフィー等の表彰アイテムの予算を計上している．大会については，昨年度の決算から収入，支出を見積もり，大会単体では黒字となる予算としている．機関誌購入費については，部数を減らして費用削減を図っており，サイバーページのボリュームも含めて，昨年度と同程度に見積もっている．機関誌業務費については，機関誌に付随する発送費・発送手数料，著者負担金請求手数料等を計上している．講習会については，FTD(参加費無料) を開催する予算を計上せず，1 回のみの開催予定として見積もっている．委託手数料については，ホームページ管理業者および会計管理のための税理士への委託料を計上している．また，消費税および住民税の概算額を租税公課に計上している．事務局費については，案内通知，督促状等，会員管理・会計等の年間業務委託費を計上し，事務局変動費として，機関誌，資料の保管料やその他事務局に委託する費用を計上している．これらの事業に関しては，支出超過の計画となっている．これには，コロナ禍による大会スポンサー収入の減収も織り込んでいる．一層の経費削減に加え，会費収入および講習会等のイベント収入を増やす方策を検討する必要がある．基礎研究賞事業については，昨年度と同じ収支を予定している．研究会事業については，各研究会の参加費等による収入と，研究会実施のための支出を計上している．会員への還元や研究会活動の活性化を目的として，これまでの繰越金を支出することを予定しており，全体としては支出超過の計画となっている．

# 収支予算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

一般社団法人日本ソフトウェア科学会　　（単位:円）

| 科目 | 当期予算額 | 前期予算額 | 差異 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| １．収入の部 | | | | |
| 学会本部事業 | 12,900,000 | 14,625,000 | -1,725,000 | |
| 入会金・会費収入 | 8,500,000 | 8,900,000 | -400,000 | |
| 大会収入 | 1,000,000 | 2,000,000 | -1,000,000 | |
| 機関誌収入 | 3,000,000 | 3,325,000 | -325,000 | |
| 講習会収入 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 雑収入 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 基礎研究賞事業 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 基礎研究賞副賞収入 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 研究会事業 | 15,950,000 | 23,450,000 | -7,500,000 | |
| PPL | 2,500,000 | 6,900,000 | -4,400,000 | |
| MACC | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| ISS | 8,000,000 | 8,000,000 | 0 | |
| FOSE | 4,000,000 | 4,000,000 | 0 | |
| ITECH | 0 | 0 | 0 | |
| DSW | 600,000 | 600,000 | 0 | |
| EIN | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| rePiT | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| MLSE | 400,000 | 3,500,000 | -3,100,000 | |
| 当期収入計 | 29,050,000 | 38,275,000 | -9,225,000 | |
| ２．支出の部 | | | | |
| 学会本部事業 | 13,450,000 | 14,625,000 | -1,175,000 | |
| 研究活動費 | 260,000 | 295,000 | -35,000 | |
| 大会業務費 | 500,000 | 1,200,000 | -700,000 | |
| 機関誌購入費 | 8,100,000 | 8,500,000 | -400,000 | |
| 機関誌業務費 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 講習会業務費 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 委託手数料 | 230,000 | 230,000 | 0 | |
| 租税公課 | 300,000 | 400,000 | -100,000 | |
| 事務局費 | 2,600,000 | 2,600,000 | 0 | |
| 事務局変動費 | 400,000 | 440,000 | -40,000 | |
| 雑費 | 350,000 | 250,000 | 100,000 | |
| 予備費 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 基礎研究賞事業 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 基礎研究賞副賞支出 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 研究会事業 | 16,050,000 | 23,650,000 | -7,600,000 | |
| PPL | 2,500,000 | 6,900,000 | -4,400,000 | |
| MACC | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| ISS | 8,000,000 | 8,100,000 | -100,000 | |
| FOSE | 4,100,000 | 4,100,000 | 0 | |
| ITECH | 0 | 0 | 0 | |
| DSW | 600,000 | 600,000 | 0 | |
| EIN | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| rePiT | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| MLSE | 400,000 | 3,500,000 | -3,100,000 | |
| 当期支出計 | 29,700,000 | 38,475,000 | -8,775,000 | |
| 当期収支差額 | -650,000 | -200,000 | -450,000 | |
| （内、学会本部事業） | -550,000 | 0 | -550,000 | |
| （内、基礎研究賞事業） | 0 | 0 | 0 | |
| （内、研究会事業） | -100,000 | -200,000 | 100,000 | |
| 前期繰越収支差額 | 40,890,131 | 41,126,450 | -236,319 | |
| 次期繰越収支差額 | 40,240,131 | 40,926,450 | -686,319 | |